

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2020

2

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	9
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社1月例句会	21
十和田たてがみ川柳会 12月句会報	28
川柳吟行会「ほ」 小野 五郎	8
■作品鑑賞■	
—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘	20
Infomation	31 ~ 32
誌上句会「0番線」作品募集	19

「無人駅」抄

カンテラ

おかじょうき川柳社代表 むさし

年が明けたと思っただらあつという間に2月。東京オリンピックがどんどん近づいています。世界が、生活に悪影響を及ぼさないようにと願うこの頃です。

そんな状況が川柳のネタになるのは構わないのですが、生活に悪影響を及ぼさないようにと願うこの頃です。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

師走某日風にイチャモンつけられる
死んだふりしながら待っているチャンス

向山タエ子
瀧尻善英

吉見恵子さん、女子会によく参加されるのですか？女子会というのは、女性たちがいつもの女性たちのままでなく、いつもより半音上げて始めるのです。1音(全音)でなく「半音」上げる、そこが大事なところでしょ。ね。「外は雪」がしんしん降っていて、女性たちはきゃあきゃあ。平和ですね、まったりと続けてください(笑)

B群

トロッコに乗って産道駆け巡る
素焼きしてみたら合わない仲だった
四捨五入やと鈍器になれました
葬式に遅れ糸瓜として揺れる
赤い月ため息は今どっちへ消えた
どっちでもいいを答えと致します
干し柿を割くように来るさようなら
オレンジインしてコーヒーをジャッカル
動詞になりたいか人形の手足
わたくしの四国あたりをなぞる人

まきこ
夏草ふぶき
勘右衛門
月波与生
須藤しんのすけ
熊谷冬鼓
守田啓子
ひらく
きさき彼句香
米山明日歌

貸し出した笑顔戻って来ませんね
ドグラマグラ やっぱり俺であつたのか
次に来る不幸どうぞお静かに
ファスナーが壊れています十二月
小春日を開けるガラスの鍵出して
あの日まで確かに風が見えていた
理由なら芋焼酎に訊いてくれ
丸いポストを捜しに行つて帰らない
来年の桜の色を考える
半音をあげて女子会 外は雪

土田雅子
木村美映
斎藤泰子
岩根彰子
安藤なみ
柳谷たかお
葉関女
吉田州花
高橋星湖
吉見恵子

米山明日歌さん、自分の体を日本列島になぞらえるなんて、気が利いた句ですね。で、明日歌さんの「四国あたり」ってどの辺？「なぞる人」って誰？「なぞる」は「すでに書いてある文字や図形などの上をたどって書く」(広辞苑第七版)こと。「触る」じゃなく「なぞる」、そこが大事なところですね。違うかな…。

C群

脳みそがジャーマンポテトなんです…
火焰土器そろそろ喧嘩しに行くか
バックドロップ三菱電気冷蔵庫
犬死んで現場にマンホールの蓋

奈良一艘
石橋芳山
小野五郎
田久保亜蘭

奈良一艘さん、風邪引いて脳の具合がよろしくないのですか？頭が「ジャーマンポテト」にねえ…。ジャーマン【German】はドイツのこと、ポテト【potato】はジャガ芋のことだから、「ジャーマンポテト」はドイツの料理かと思ってしまうけど、ウィキペディアによればドイツにはいわゆる「ジャーマンポテト」はないそう

です。英語名は German fries もしくは German fried potatoes で、19世紀には既にこの名前が英米の料理本に記載されていたと言います。その「ジャーマンポテト」が、一艘さんの脳みそと突然すり替わった：(汗)日本では、居酒屋のメニューにしばしば登場する「ジャーマンポテト」ですから、一艘さんの脳が居酒屋にジャックルされたとしても何の不思議もないのですが、詳しくは一艘さんに会った読者のみなさんが個々に確認してくださいれば有難い。南無南無。

石橋芳山さんは「火焰土器」を知ってらっしゃるのですか…。博識でいらっしやいますね。私は昔、村の教育委員会で遺跡の担当をやっていたことがあります、「火焰土器」は名前と形を微かに記憶している程度で詳しいことを知りません。広辞苑を調べますと「縄文時代中期に新潟地方で作られた火焰状に見える装飾を施した土器」と出てきます。「火焰」は「火炎」と同じ。芳山さんは、「火焰土器」を見ると興奮するのですか…。で、誰かとケンカをしたくなるのですか…。でも、「火焰土器」は新潟地方で作られたものだから頻繁に「火焰土器」を

てしまうことがあります。「三菱電気冷蔵庫」はそれほど強力だったのでしょうか。あれ？五郎さんて「三菱電気冷蔵庫」を見ると「バックドロップ」で投げ飛ばしたくなってしまっただけのこと？前の句の芳山さんと五郎さんの性格がどこか似ているように思えて来ましたが、気のせいでしょうか…(汗汗)

田久保亜蘭さん、以前、秋田犬を飼ってると聞いていたことがあるような気がしますが、違っていました？死んだ「犬」って、まさか亜蘭さんの愛犬じゃないでしょうかね。にしても、「犬が死んで」いて、そこに「マンホールの蓋」があるってミステリアスですね。秋田県五城目町って、直径60センチ、重さ40キロの「マンホールの蓋」が突然飛んでくる町なの？それだったら、こんな句が生まれるのは理解できますが、いくら亜蘭さんが住んでる町でもそれはないでしょうね…。とすれば、犬の死因は何なのだ。亜蘭さん、これは事件です、警察とマンホールの管理者へ報告すべきです！にしても、恐ろしい。キヤイーン！

見ているわけでもないようです。芳山さん！たまには喧嘩してもいいけど、ケンカが本職の方とやらない方がいいですよ！あの連中は飛び道具を持ってたりしますからね！にしても、芳山さんがそんな方とはついで知らなかった。気をつけなくちゃ。それでこんなバカ丁寧な言葉遣いになってしまった…。ぶつぶつ(汗)

小野五郎さん、これって5・7・5を無視していませんか？と思ったけど7・7・5なんです(汗)にしても、いきなり「バックドロップ」が来て、次に「三菱電気冷蔵庫」とは驚きました。普通にこの句を読めばA「バックドロップ」+B「三菱電気冷蔵庫」という形だから、A||Bということなんだけど、それでいいのかな？つまり、「三菱電気冷蔵庫」は「バックドロップ」である、という読み方で間違いないのかな？おっと…、「バックドロップ」を知らない人がいるかもしれない。「バックドロップ」は、キャンディーの一種ではありません。日本名は「岩石落とし」。相手の背後から片脇に頭を潜り込ませ、更に相手の腰を両腕で抱え後方へ反りながら投げるプロレスの強烈な投げ技。これだけで勝負が決まっ

落丁ではありません(笑)

—参加者募集しています—

「川柳吟行会 ぽ」

—棟方志功記念館—

小野 五郎

昨年11月の吟行場所は青森市松原にある棟方志功記念館である。青森出身の世界的版画家の作品を多数収蔵、展示している。吟行参加者は各自の都合のよい時に観覧した。句会は20日2時30分からアウガで行った。

茅野行く十大弟子を引き連れて

滋野さち

国内外のコンクールで数々の賞に輝いた版画作品「二菩薩釈迦十大弟子」からの発想か。茫々たる茅野を人生と重ねた。それを踏み分けて行く人の後姿が見えてくるようだ。後からついて来るのは作者の分身なのだろう。

おもだかの花だった袖口のゴムだった

守田啓子

志功は自らも出演したビデオ作品の中でオモダカの花との印象的な出会いについて語っている。又、志功が愛用していたチェックのウールシャツが展示されていたが制作をしやすいように袖が短く仕立てられ、袖口はボタンではなくゴムが入っている特別なものである。これらのことから着想を得た独創的な作品。

令和元年内助の功という神話

熊谷冬鼓

志功の妻チヤはスケッチ旅行などにも同行し、身の回りの世話や制作の手伝いまでして志功を支えていた。志功作品の中にチヤへの感謝の念がこもっているものが数多くある。

乾坤一擲壁から志功が降りてきた

笹田隆志

「大世界の柵 坤一人類から神々へ」という作品は縦1.8m、横13mという版画（志功自身は版画とよぶ）の大作である。振り鉢巻きをした志功が一心不乱に彫っている姿が目には浮かんでくる。

初雪や志功館へと辿り着く

渡邊こあき

棟方志功記念館へは国道のバス停から歩くと結構時間がかかる。筆者は閉館時間を確かめずに行ったのでやや急いで観覧した。志功に敬意を払い余裕をもって鑑賞するべきであった。反省。

板の上踊る火の色風の声

小野五郎

おかしようき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅1月月間賞

踏ん張りがきかなくなつたカギ括弧

熊谷冬鼓

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

急速冷凍する失礼な事例
デッサンが狂って楽になれました
B面にひっそり咲かす水中花
ほへとちりぬる辺りでハートひび割れた
動詞になりたいか人形の手足

先月号のお気に入り
寂しいと蕎麦ものびるんだなあ 秋 勘右衛門
語尾も「ム」紐も間延びし出すんだなあ 秋

木村美映【きむらびえい・青森県青森市】

パプロフの犬が待つてる桜餅
取り舵を持たない船であったとは
タブレット傾げてヘルター・スケルター
駆け込んでくれないならば追い込むか
ドグラマグラ やっぱり俺であったのか

先月号のお気に入り
前向きな三上寛なら置いて行け 月波与生
それならムーンウォークで（笑）

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

七十歳あれもこれもこの勤工場
朝起きる昨日一日解脱する
イワンの馬鹿理非直局の膝頭
明日の路を夕べに訊いて玉子焼き
恥しらず悪衣悪食無味無臭

先月号のお気に入り
かあさんはもう液化していくピアノ 岩根彰子
とっさんは炎上しちゃったでもピアノ

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

果てしなく自分に甘いまま生きる
真夜中の泣き言友は聞き飽きた
壁いくつ越えたら鳥になれますか
性格を変えない限り進めない
負けず嫌いが言い訳を許さない

先月号のお気に入り

熊谷冬鼓【くまがいたうこ・青森県青森市】

めがね拭くあれこれそれを差し置いて
落し蓋だった時代は伏せてある
どっちでもいいを答えと致します
山ざくら芽吹いて春の予約席
蒟蒻と役割分担して眠る

先月号のお気に入り
ありがたい水と嫌いな水がいる 夏草ふぶき
複雑な感情が伝わります

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

いま北の砦を積んでいるところ
戦意喪失浅い眠りの続く冬
老母さんが欠片になってゆく 日ごと
次に来る不幸どうぞお静かに
芽吹く時そこに私がいますよに

先月号のお気に入り
噛み合わせぬコントは今日も続きます 勘右衛門
噛み合わなくても怒らないからいいことになっています。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

言い訳をしない歯を割る舌の位置
赤い月ため息は今どっちへ消えた
Kd3戦場までのカンパネラ
目をあけて唇を吸う確かな喜劇
くちびるが冷たい元カレのピアス

先月号のお気に入り
いただいた折り目がついている言葉 ひとり静
手垢がついた言葉はかりの中、折り目がついた言葉って
ピツとして素敵ですね！

高橋星湖【たかはしせいこ・青森県むつ市】

自分から私を抜いて行く夕陽
ガーベラの真紅本気度見せて咲く
枯れ切った野で又脱輪してしまふ
口中に冬をひろげる りんご
来年の桜の色を考える

先月号のお気に入り

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

神さまが溝に隠した二十五時
熟睡が出来た仕事が出来そうだ
いじめ方までも教師が手本見せ
高齢者置き去りにするLINEペイ
死んだふりしながら待っているチャンス

先月号のお気に入り
遊びたりない炭酸の泡だから 吉田州花
遊び心いっぱいな炭酸の泡ですね。よく見ればコップの泡があつちに行ったり、こつちに来たり…。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

犬死んで現場にマンホールの蓋
柔らかいあなたをなにて刺そうかな
道をふさいでいるのはさつき話した男
白色ははだかになったまま動く
過去形にしては随分がんどき

先月号のお気に入り

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

古着屋に北極星が捨ててある
ビニ本のビニールを見る不自由展
葬式に遅れ糸瓜として揺れる
一月だからって中途半端な同意
真冬日に晒して色違いにする

先月号のお気に入り
焼酎を一杯そして悶絶型痴呆 奈良一艘
すっかり悶絶型昇天しちゃいますよ。

土田雅子【ちただまさこ・青森県青森市】

貸し出した笑顔戻って来ませんね
介護したつもりが介護されている
貸付の担保にポリープ差し上げる
失くした夕日が落ちている古本屋
雨上がりですか貸金どつとこむ

先月号のお気に入り
双子座に振り回されて大掃除 葉閑女
双子座の二女には振り回されっぱなしだ。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

焦げちゃった雪だけ傍に置いている
気づくのが遅いと溶けてしまう海
太陽を嫌うとゆつくり日が暮れる
冷蔵庫と玄関だけで年を越す
素焼きしてみたら合わない仲だった

先月号のお気に入り
昼休みにプライバシーのない映画館 笹田隆志
これって経験ありまーす(赤面)

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

サバイバルナイフの刃毀れのゆるさ
白線を越えたところがエビドリア
ミーアキャットしている舌の裏側で
そこからは選ばないという選び方
脳みそがジャーマンポテトなんです…

先月号のお気に入り
結局はネギ科の男よぶことに 米山明日歌
あれ？呼んだ？

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

グルコサミン放出海は風である
風は北向き調査委員会設置する
部分入歯で食いちぎる海その他
サルが木から落ちた回答控えます
サクラが気になる口臭が気になる

先月号のお気に入り
「誰でもよかった」と名札がついている Sin
「誰でもよかった」と言ったのが名札だとすると、実におもしろい。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

テーブルの真ん中辺にある時間
明日いる勇氣のためのダーズリン
姉として妹として水たまり
雪舟のねずみ日本のあちこちに
二十日には終わるわたしのクリスマス

先月号のお気に入り
このまんま行けば出会ってしまつひと 斎藤泰子
それが定めなのでしょうか

ひらくく【ひらく・青森県蓬田村】

ポテト顔はホクホク甘く進化中
ハンバーグギャクセキテキに家出止め
オレンジインしてコーヒーをジャツカル
ハンバーガー2個ならべても時間軸
コトバとはマークなんだとティーポット

先月号のお気に入り

まきぎん【まきぎん・青森県青森市】

トロッコに乗って産道駆け巡る
悪知恵と遭遇 ままごとは終わり
白無垢に隠した角が天を突く
奇遇ですねと悪魔に声をかけてみる
帯締めて白粉塗ってあらまさか

先月号のお気に入り

秋ですよ 枯れる準備をなさいませ 齋藤泰子
準備万全です。笑って枯れましょう。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

嘘1つからどんどん増えていく疑惑
不都合を全て飲み込むシュレツダー
総理にいつも付度の影ついている
9分9厘勝ってたはずの落とし穴
いつだつてどこでもドアを開けられる

先月号のお気に入り

胸の奥トトロ口の森がいまもある 瀧尻善英
ごじゆね

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

干し柿を割くように来るさようなら
底冷えの朝の厄払いのお札
ハゼ揺れる町だから欠席に〇
カンレキの視野に合うまで海を干す
よく揉んで揉んでカンレキ迎えます

先月号のお気に入り

老いるとはひらひらになることですか ひとり静
たぶん・・・ひらひらになじたい気もします。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

何をどう話せばいいか花の種
雑音とわかつていても覗きたい
体調に合わせています無関心
覚悟するかたちをつくる問診票
気苦労を笑うあつけない結末

先月号のお気に入り

済んだことなのにウフフが止まらないまきぎん
うらやましい・・・と言いつつ私にも覚えが。

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

口出しをせず静かなバアさん演じてる
身から出た・サビ・それが皺なのかなア
師走某日風にイチャモンつけられる
ケサランパサランが餅を喰っている
ジョギングするワラワラと逃げていく雪

先月号のお気に入り

じゃんけんをスカンクとした足の指 安藤なみ
手よりは足の方が少しでも被害が少ないでしょうから私
もそうします。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

男の子だけが集まるひな祭り
あの日まで確かに風が見えていた
春の夢くつきり見る雪だるま
街路樹も僕も切られる春近し
Iターンとても優しい人ばかり

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんにょ・青森県青森市】

新しい朝に朱色を撒き散らす
理由なら芋焼酎に訊いてくれ
記述式国語をAとAに課す
国産みまで邇上しないとあきまへん
脇役の芸術的なつまみ食い

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

弾けて生きて心に残るところでん
帰巢本能 傘を何本忘れても
逃げはせぬここで樹になる霜柱
丸いポストを捜しに行つて帰らない
巻き添えになる立冬も葉ぼたんも

先月号のお気に入り
眠れない夜からトルコ行進曲
行進曲と向う先には。 月波与生

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

にこやかに登場二つのハート輝いて
車間距離ずーっと保つ イイカンジ
朝日から枝越しに貰つてる チュッ
お日様が味方しているネックレス
まだまだお天気季節は秋 つづく

先月号のお気に入り
秋ですよ 枯れる準備をなさいませ 斎藤泰子
了解っす(VOV) /

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

とある朝海は死骸に覆われる
バンドエイド止めて包帯指に巻く
小春日を開けるガラスの鍵出して
影のない人と深夜のブランデー
子供の足になつて踏む霜柱

先月号のお気に入り
肯定も否定もせずに聞いている まみどり
先ず、全部聞いてから、クッキーを食べ始めるのかしら。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

心理戦腐り初めている林檎
間の抜け面して消えかけたネオン
位置取りを誤り返り血を浴びる
金儲け考えている眠れぬ夜
火焰土器そろそろ喧嘩しに行くか

先月号のお気に入り

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

落葉の膝掛けまとう冬木立
本りんご赤いセーター冬籠り
半音をあげて女子会 外は雪
雪しんしん諸行無常を積もらせる
どの鬼も宥めつくして二月尽

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

切れ味をなんども試す十二月
頬に線消えないままで見る夕日
乙女座の男ばかりの第九聞く
だいたいは一筆箋で終ること
わたくしの四国あたりをなぞる人

先月号のお気に入り
右を向いても左を見ても小骨 熊谷冬鼓
わかります。そんな人。そんな自分。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

ファスナーが壊れています十二月
五十年ご縁を擦る歯磨き粉
松前漬に筋子に走る商品券
三叉路の光背である落葉樹
屋上の遊具は雲にならはず

先月号のお気に入り
雑草をハサミで刈ってあげている 安藤なみ
今朝、眉毛の白い雑草を刈り取ってあげました。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

食卓がラグビー場になつていた
箸置きの少し先から余所の国
飯べらが二本一発芸やつてみる
落し蓋楯円銀河が向いている
バックドロップ三菱電気冷蔵庫

先月号のお気に入り



課題と選者（2句詠・共選）

題：『反』

2/28 〆切

選者

内田真理子（京都府）

須藤しんのすけ

（青森県・おかじょうき川柳社）

投句方法

郵送・FAX・インターネットのいずれかからお選び下さい。

<投句先>

郵送：〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 守田啓子宛

FAX：017-723-5696

ネット：<http://www.okajoki.com/toku/Oline.html>

投句料

1,000円（発表誌呈）※発表誌の送付をもって、受領したものとさせていただきます。

※おかじょうき川柳社会員は無料です。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

◆郵送先：〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 守田啓子宛

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

勘右衛門「かんえもん・神奈川県横浜市」

愛されたくてわたしの皮を轆します

山ほどの鉄ビシを撒く日曜日

ラジオの中に大原麗子いるらしい

本日の悪意をこぼす醤油差し

四捨五入やつと鈍器になりました

先月号の
お気に入り

誘うなら用意しなさい決めゼリフ
了解しました！

まみどり

むさし「むさし・青森県蓬田村」

古稀だねと自分の脚を揉んでやる

夕焼けの空だ走ってみようかな

ひっそりと尻尾が長くなっている

「子どもの頃のお前はなあ」と話す壁

靴下の穴だが一つ買わないか

落丁ではありません（笑）

深読心理

ありがたい水と嫌いな水がいる

夏草ふぶき

(おかじょうき12月号より)

ありがたい水と言えば、青森市には「小牧野遺跡の湧水」や「十和田霊泉」があるし、弘前市には「御膳水」「清水観音水」「岩木山御神水」など県内各地に結構有名なありがたい水は一杯ある。それぞれ列を成しながら水を汲みに訪れているという話はよく聞いている。で、作者にとっての嫌いな水ってのは塩素消毒したカルキ臭い水道水、或いは硬水あたりなのか、ふむふむ。とこの句を通り過ぎようとしたのだが…いや、ちょっと待ってくれ！

そもそも水は「ある」のであって「いる」のではない。「いる」という事はつまりこの水は「人」。そしてその人はありがたい面も嫌いな面も持ち合わせている同一人物。それごとく身近にいる水のような存在。親族であるかも

しれないし、伴侶かもしれないと考えるとピタリと当てはまる。

助けられたり世話になったり、心の支えだったり、愛されたりした時にはとてもありがたい存在ではあるが、喧嘩をしたり心外な言動をされたりすれば鬱陶しく嫌いな存在になる時もある。更に作者は、ありがたいを平仮名表記にし、嫌いを漢字表記として少し嫌いを強調している。ということは、その人物の嫌いな状態をごく最近見てしまつて戸惑っている…?のかも知れない。

みつを風に言えば「人間だもの」仕方がない。と、小さな声で言っておく。

仲良くなさつて下さいね。ふっふっふ。

選択肢、 その一、

1月4日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(14名)

渡邊こあき・守田啓子・熊谷冬鼓・きさらぎ彼句吾・葉閑女・むさし・田中薫・笹田隆志・野沢省悟・まきこ・奈良一艘・木村美映・土田雅子・小野五郎

▼投句者(14名)

米山明日歌・夏草ふぶき・石橋芳山・村上あつこ・勤右衛門・鳴海賢治・田久保亜蘭・月波与生・城後朱美・坂本清乃・村井規子・吉田吹喜・須藤しんのすけ・まみどり

おかじょうき川柳社

1月例会

席題『増』

青森県青森市

渡邊こあき選

【佳作】

所得倍増そんな昔は忘れたわ

まきこ

舞台暗転毛玉ばかりが増えてゆく

熊谷冬鼓

生家ほろほろ隣も空になったとさ

熊谷冬鼓

ともかくもハンカチ落とし続けよう

小野五郎

抽斗の奥で増えるモアイ像

むさし

荷重オーバー箱入りのゴーン

笹田隆志

御破算にしても出来ない若返り

葉 閑女

ゴーンゴーンどんどん増えるミステリー

まきこ

新年の欲深い朱の花ばさみ

土田雅子

ささくれわんさか 多情の薔薇になる

きさらぎ彼句吾

煮詰めれば固くなつてく子とお肉

土田雅子

豚まん三個目ほほえみ返ししています

野沢省悟

咳をする度に近づくエピローグ

奈良一艘

キヨロキヨロが増えた手を引いて下さい

田中 薫

消しクズの量ほど増える選択肢

木村美映

【秀逸】

根雪に根雪が積もってしまう股関節

むさし

終活を始めてからの胃酸過多

まきこ

思い込みだったか粉雪補填する

熊谷冬鼓

【特選】

ため息の残高ばかり増え つらら

きさらぎ彼句吾

* ため息じゃなく深呼吸にかえましょう。

席題『増』

青森県青森市

守田啓子選

【佳作】

雪原野不安ばかりが増してくる

渡邊こあき

ささくれわんさか 多情の薔薇になる

きさらぎ彼句吾

豚まん三個目ほほえみ返ししています

野沢省悟

所得倍増そんな昔は忘れたわ

まきこ

五十年変わらぬ寅さん変ったわたし

野沢省悟

白桃の産毛のようにピロリ菌

奈良一艘

ゴーン逃亡安倍の支持率わずか増え

木村美映

ため息の残高ばかり増え つらら

きさらぎ彼句吾

ゴーンゴーンどんどん増えるミステリー

まきこ

ささくれわんさか 多情の薔薇になる

煮詰めれば固くなつてく子とお肉

豚まん三個目ほほえみ返ししています

咳をする度に近づくエピローグ

キヨロキヨロが増えた手を引いて下さい

消しクズの量ほど増える選択肢

根雪に根雪が積もってしまう股関節

終活を始めてからの胃酸過多

思い込みだったか粉雪補填する

ため息の残高ばかり増え つらら

舞台暗転毛玉ばかりが増えてゆく

月末は辛酸なめ子増えている

根雪に根雪が積もってしまう股関節

新年の欲深い朱の花ばさみ

終活を始めてからの胃酸過多

増えている耳鳴り肩凝り古い傷

生家ほろほろ隣も空になったとさ

地球ゴミ衛星ゴミ人もゴミ化

キヨロキヨロが増えた手を引いて下さい

消しクズの量ほど増える選択肢

根雪に根雪が積もってしまう股関節

終活を始めてからの胃酸過多

増えている耳鳴り肩凝り古い傷

生家ほろほろ隣も空になったとさ

地球ゴミ衛星ゴミ人もゴミ化

キヨロキヨロが増えた手を引いて下さい

消しクズの量ほど増える選択肢

語彙少し増えて手足が生えて来た

* そして…、最後は観音様。

宿題『喜』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

ザブンザブんと海が喜ぶから見てる
 大中小 玄関の靴しゃべりだす
 今年の桜は喜色満面とは行かぬ
 なあおまえキザかもしれんがサンキュー
 重箱に箸はしゃがせて百二歳
 よろこびがまだまだ生えてくる尻尾
 逢える日の体温計は二度上がる
 わたくしが泣くと喜ぶ人がいる
 アンパンの餡のとりの指定席
 シャンプーの匂いふたりの日曜日
 初夢に元気なころの母の声
 うれしいと鼻水が出る私です
 女子だった頃を反芻してうふふ
 いいじゃない拓郎にまだ羽がある

城後朱美
 坂本清乃
 木村美映
 田中 薫
 葉 閑女
 勘右衛門
 きさらぎ彼句吾
 城後朱美
 勘右衛門
 須藤しんのすけ
 渡邊こあき
 小野五郎
 熊谷冬鼓
 夏草ふぶき

いい風だ老犬よアクセル踏めよ
 返済を迫まればタヌキ笑い出す
 新年が腹直筋を押して来る
 一粒の米の甘さを知ってるか
 底辺×高さ÷2の喜劇
 とりあえず今日も目覚めた生きてみる

【五客】

生きるって糠喜びの繰り返し
 何の祟りだろうウフフが止まらない
 九条を終着駅で喜劇する
 スターウォーズ完結少年を脱いだ
 「リカちゃんと会えるバナナ」を買いにゆく
 ノルウェーの森にぽつんと整体院
 【地位】
 悲劇ですかいや喜劇です 合掌
 【天位】
 柩で見直すほどの傷も喜劇
 きさらぎ彼句吾

* 柩の中では誰も嘘が吐けないのです。

田中 薫
 まきこ
 土田雅子
 奈良一艘
 田久保亜蘭
 村井規子
 熊谷冬鼓
 まきこ
 笹田隆志
 野沢省悟
 奈良一艘
 守田啓子
 まきこ

宿題『きれる』

青森県青森市 小野五郎選

【佳作】

自分から断ち切れなくてまだ夫婦
 ゴーン逃亡 鎖がブチッと切れる音
 マジ切れじゃないのかこんなにも白い
 すぐ切れる訳をきかせて欲しい川
 カントリーマムをしゃぶるキレそうな夜
 きれる覚悟はまだできておりません
 逆ギレをするほど理解していかない
 断捨離は続く消失点に向かって
 父の欄に油切れたテロリスト
 切れ味の試しにじいちゃんをおおる
 縛れたり不意に切れたりする糸だ
 包丁とハサミ忍ばせ縁切り寺
 ギザギザにならないように研ぐ命
 こぎん刺し吹雪動脈瘤破裂

城後朱美
 むさし
 石橋芳山
 米山明日歌
 守田啓子
 鳴海賢治
 まみどり
 土田雅子
 きさらぎ彼句吾
 石橋芳山
 奈良一艘
 まみどり
 奈良一艘
 守田啓子

キレもコクもありませんけどモレがある
 きれ者でした 足長おじさんです
 割り切れぬ想いがふたつなめこ汁
 水切れの悪い女で生乾き
 賞味期限切れても ちゃんと生きてる
 良く切れるハサミをいつも持ち歩く

【五客】

シュレッダーからは絆の切れる音
 活断層をじつと見ている手術痕
 満月がスパッと切れた時に逝く
 桜を見る会の切断面をみる
 わたくしをそんなナイフで切れますか
 【人位】
 グレタさん手つなぎ鬼を切ってくれ
 【地位】
 情死未完全蛍光灯の消える音
 【天位】
 しがらみが無くなった 迷子になった
 吉田吹喜

* 人生の一面を率直・明瞭に述べた点に共感。

木村美映
 鳴海賢治
 まきこ
 米山明日歌
 米山明日歌
 城後朱美
 月波与生
 むさし
 奈良一艘
 月波与生
 田久保亜蘭
 田中 薫
 須藤しんのすけ

宿題『自由詠』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

奇遇だねって雪が足跡消してゆく
電車から平和な津軽午前8時
屋根だけは立派な家に住んでいます
助詞も助動詞も修飾語も造花
傷跡をなぞる難破船のように
覚悟した人からもう花吹雪
余分なものはすぐ吊す主義である
決心をいただくまでの回転ドア
令和二年一切成り行きでいいじゃん
正直に答えた方がまた負けた
罪状認否はみかんの皮である
家に降る雪だけピツとした背筋
忘れ去るためにあくせく水を飲む
「好きです」はとうに湯冷めをしています

まきこ
北野岸柳
まきこ
土田雅子
夏草ふぶき
須藤しんのすけ
小野五郎
熊谷冬鼓
笹田隆志
勘右衛門
米山明日歌
勘右衛門
小野五郎
葉閑女

御守りと同じ重さの傘を買う
寂しいと言ってみたって影は影
朝起きて昨日の悪を解脱する
わたくしを繕う冬の一ページ
罪状を暴く乾いたサシスセソ
生まれた事の意味も知らずに死んでゆく

熊谷冬鼓
鳴海賢治
勘右衛門
夏草ふぶき
守田啓子
帆

【五客】

この風と決めて野に居る女偏
グレーな時は子供談室を聴く
ちよつと酸っぱくなってきたけれど…いい？
靴下の穴だが一つ買わないか
調律のすんだ笑いはよく響く

木村美映
守田啓子
城後朱美
村上あつこ
渡邊こあき

【人位】

ぽろりぽろり湯船で落ちるきょうの棘

守田啓子

【地位】

裸眼で生きるには寒いなあこの世

吉田吹喜

【天位】

選択肢その一、点滴かラーメンか

小野五郎

* 決まりましたが、難しいですネ。

順位	氏名	打率
1	守田啓子	0.833
2	奈良一艘	0.667
2	米山明日歌	0.667
2	まきこ	0.667
5	熊谷冬鼓	0.556
6	むさし	0.500
7	きさらぎ彼句吾	0.444
7	田久保亜蘭	0.444
7	まみどり	0.444
7	城後朱美	0.444
7	田中薫	0.444
12	土田雅子	0.333
12	吉田吹喜	0.333
12	須藤しんのすけ	0.333
12	石橋芳山	0.333
12	鳴海賢治	0.333
12	月波与生	0.333
12	勘右衛門	0.333
19	夏草ふぶき	0.222
19	木村美映	0.222
19	笹田隆志	0.222
19	坂本清乃	0.222

打率

【選句率】※規定投句数は最大可能投句数の50%

順位	氏名	本数
1	吉田吹喜	2
2	米山明日歌	1
2	守田啓子	1
2	きさらぎ彼句吾	1
2	奈良一艘	1
2	まきこ	1
2	須藤しんのすけ	1
2	田中薫	1

本塁打

【3点句数】

順位	氏名	打点
1	奈良一艘	10
2	米山明日歌	9
3	守田啓子	8
4	まきこ	7
4	吉田吹喜	7
6	きさらぎ彼句吾	6
6	熊谷冬鼓	6
6	田中薫	6
9	むさし	5
9	須藤しんのすけ	5
9	田久保亜蘭	5
9	月波与生	5
13	まみどり	4
13	城後朱美	4
13	勘右衛門	4
16	土田雅子	3
16	鳴海賢治	3
16	石橋芳山	3
16	笹田隆志	3
16	坂本清乃	3
21	夏草ふぶき	2
21	木村美映	2
21	野沢省悟	2
24	小野五郎	1
24	葉閑女	1
24	渡邊こあき	1
24	村上あつこ	1
24	村井規子	1

打点

【総得点】

二冠王への道

【二冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。

十和田たてがみ川柳会12月句会

【時】令和元年12月21日（土）

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・村上昌子・高田幸柳
 【投句者】磯島雅男・城後朱美・福田芳詔

■席題『捻子』

久保あざみ 選

【平抜き】

欲張ってネジ巻き過ぎてはじかれる
 一強はモリカケサクラでネジ緩む
 錆び付いた頭の捻子を締め直す
 父と子の千切れたネジが泣いている
 週末は捻子を緩めてみませんか
 捻子回す心の緩みまで締める
 旅立ちの子へ捻子を巻く親心
 切り株に捻子巻き生きた証し見る
 末っ子はネジ巻かれても締まらない

村上 昌子
 佐藤まさあき
 高田 幸柳
 斉藤 蛙井
 瀧尻 善英
 木村奈生美
 木村奈生美
 村上 昌子
 佐藤まさあき

【秀逸】

一本の捻子が支えた暮らしの和
 どう見ても一本ネジが抜けた人

木村奈生美
 瀧尻 善英

【特選】

哲さんはアフガンの捻子だった筈

斉藤 蛙井

■席題『捻子』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

哲さんはアフガンの捻子だった筈
 木ネジを拳句のはてに打ち付ける
 一強はモリカケサクラでネジ緩む
 欲張ってネジ巻き過ぎてはじかれる
 旅立ちの子へ捻子を巻く親心
 父と子の千切れたネジが泣いている
 捻子回す心の緩みまで締める
 錆び付いた頭の捻子を締め直す
 【秀逸】
 末っ子はネジ巻かれても締まらない
 ふんどしを締めて奮起の捻子を巻く
 【特選】
 一本の捻子が支えた暮らしの和

斉藤 蛙井
 佐藤まさあき
 佐藤まさあき
 村上 昌子
 木村奈生美
 斉藤 蛙井
 木村奈生美
 高田 幸柳
 佐藤まさあき
 高田 幸柳
 木村奈生美

■宿題『寝る』

高田 幸柳 選

【平抜き】

リラックスイヤガ教室で寝てしまふ
 増税と台風被害泣き寝入り
 うらうらと見果てぬ夢は枯尾花
 退職し朝は十時の濡れ落葉
 食べて寝る暮らしの幸を神に謝す
 女房に言い負かされてふて寝する
 ぬくもりの寝床も覚めるトイレット
 今日の日のお面はがして就く寝床
 子守歌今日も添い寝をするラジオ
 子守唄妻の軀はロック調
 戦いの明日へ備えておく早寝
 うとうととしてコンビニへ朝が来る
 寝て起きるだけで整頓された朝

城後 朱美
 漆館ミノリ
 斉藤 蛙井
 久保あざみ
 木村奈生美
 佐藤まさあき
 磯島 雅男
 村上 昌子
 斉藤 蛙井
 木村奈生美
 瀧尻 善英
 磯島 雅男

【秀逸】

二次会は眠ってたけど同じ額
 罰当たり大臣席で船を漕ぐ

瀧尻 善英
 佐藤まさあき

【特選】

講演会終わる拍手で目が覚める

瀧尻 善英

■宿題『値上がり』

木村奈生美 選

【平抜き】

台風が野菜相場に吹き荒れる
 また投句はがき値上がりどうしよう
 値上がりに文句言えない年金者
 じわじわと効く値上がりのボディブロー
 増税と値上がりサイフかぜをひく
 イートイン諦めパンの持ち帰り
 運賃を値上げ廃線切り抜ける
 人口減値上げは国の無駄遣い
 値上がりで年金下げで身がもたぬ
 値上げ札過疎の店さき風に舞う
 木枯と値上げ無情の歳の暮
 値上がりで喜ばれるは株値だけ
 ボケる暇ない智恵絞る物価高

高田 幸柳
 磯島 雅男
 城後 朱美
 磯島 雅男
 漆館ミノリ
 城後 朱美
 瀧尻 善英
 久保あざみ
 漆館ミノリ
 斉藤 蛙井
 斉藤 蛙井
 福田 芳詔
 村上 昌子

【秀逸】

オークション値上がり覚悟落とすまで
 財布からため息漏れる物価高

福田 芳詔
 瀧尻 善英

【特選】

消費税アップ小遣い減らされる

城後 朱美

▼ 2020.03.01 第18回青森県近代文学館川柳大会

【日時】令和2年3月1日(日)午前11:30～16:30(11:30受付開始・席題発表の予定)
 ※事前の申し込みは不要です。当日直接会場へお越しください。【会場】青森県立図書館4階集会室【参加料】無料(参加者には大会入選作品集進呈)【賞】各特選入選者に記念品進呈【宿題と選者】(各題2句詠)投句拝辞(郵送等による事前の投句はできません)『輪』夏草ふぶぎ・成田我楽(共選)『トラブル』田中薫・長利冬道(共選)『さらさら』綿谷夕雨子・高森一吞(共選)『握る』潤子・山本弘志(共選)【席題一題】(2句詠・共選)『 』選者は当日発表【講座】「第20回かもしか大会『寺尾俊平批評吟』」(1991年・音声資料)【主催】青森県近代文学館【問い合わせ】〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7 電話 017(739)2575

□ 2020.04.10 カモミール句会設立五周年記念誌上句会

【兼題】2句詠『自由吟』【選者】男女各3名による合計6名による共選 柳本々々(東京都在住・無所属)／細川静(青森県在住・「川柳カモミール句会」会員)／植崎進弘(大阪府在住・「連衆」会員)／高鶴礼子(埼玉県在住・「ノエマ・ノエシス」主宰)／なかはられいこ(岐阜県在住・「川柳ねじまき」発行人)／三村三千代(青森県在住・古典文学研究者)【締め切り】2020年4月10日(金)(当日消印有効)【参加費】一口1,000円(切手不可・小為替等で)／発表誌呈 ※お一人何口でも参加可能です。【投句用紙】自由(郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下さい)【投句先】〒031-0056 八戸市新荒町7 滝沢方 笹田かなえ TEL 090-2998-7277【賞】選者特選の各1名に青森県産のさくらんぼ「ジュノハート」一箱進呈(ジュノハートとはハート型のさくらんぼで1粒350円×12粒)※他に入選数の多い作品には青森県特産品を予定しております。発表は7月上旬発行予定の「川柳カモミール 4号」誌上に。ジュノハートで夏のバレンタインはいかがでしょう。

十和田たてがみ川柳会2月句会

【時】2月15日(土) 午前10時00分から【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『腹』高田幸柳選／『省く』木村奈生美選【互選】(二句詠)『挟む』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入)【席題】一題(三句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳

■宿題 『ネックレス』互選

- ① ネットレスそっと置いてる思い出を 久保あざみ
- ① 鏡台で持ち主を待つネックレス 高田 幸柳
- ① 若い時似合っていたと思ってた 久保あざみ
- ② ネットレス外して主婦の顔になる 佐藤まさあき
- ② クローバーで編んだネックレスママに架け 佐藤まさあき
- ② 未だ恋に揺られて揺れてるネックレス 木村奈生美
- ② ネットレス外し肩の荷も下りる 瀧尻 善英
- ② 嫁ぐ娘へ掛ける真珠のネックレス 瀧尻 善英
- ③ ネットレス女心を唄い出す 齊藤 蛙井

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□ 2/11(火)「若い」 □ 2/25(火)「△」 □ 3/10(火)「食べる」

□ 3/24(火)「静か」 □ 4/14(火)「事件・事故」 □ 4/28(火)「役」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3
 むさし宛／TEL.0174-27-2008／E-mail：hmusashi@r66.7-dj.com

■会費拝受 (12月受付分)

安藤なみ(愛知県)/ひとり静(奈良県)/小林茂子(岡山県)/田久保亜蘭・斎藤泰子(秋田県)/守田啓子・熊谷冬鼓・まきこ・土田雅子・葉閑女・小野五郎・渡邊静子・横山キミエ・向山タエ子・前輝・前田悠遊・吉田州花・中道文子・佐藤節子・菊池京(以上青森市)/きさらぎ彼句吾・相馬のどか・吉田吹喜(以上弘前市)/笹田かなえ(八戸市)/久保あざみ(十和田市)/鳴海賢治(つがる市)/柳谷たかお(外ヶ浜町)/むさし・坂本清乃(蓬田村)

■おかじょうき川柳社 会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかじょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

終着駅 Sin

◆様々なプロ野球の球団で監督を務めた野村克也さんが亡くなった。「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」を座右の銘としていた野村さんだが、これは、江戸時代の大名・松浦静山の剣術書『剣談』に出てくる言葉らしい。要は、勝つ時には、相手の失敗や何かしらが要因となって、何で勝ったのかわからない不思議な勝ちというものがある。ただ、負けた時には、必ず負ける要因があって、なぜ負けたのかという不思議はそこにない、という意味である◆私は、この言葉は川柳にも当てはまるとずっと思ってきた。皆さんも経験ないだろうか。なんと

くサラッと作った句が、色んな人から好評だったということが。そういう不思議な勝ちをする句がたまにある。書いた本人だけが良さがわからないみたいな(笑)ただ、評価を得ない句には、必ずどこかに良くない要因があるのだ。完璧な作品などそうそう生まれるものではない。その「負けの要因」が何なのか知りたいと思うのは自分だけなんだろうか。もしも、川柳に対して壁を感じている人がいるのなら、一度、その「負けの要因」に耳を貸して、その意見を活かしながら、次にすすんでみてはどうだろうか。新しい自分と出会えるかもしれないから◆Sin



おかじょうき川柳社

<http://okajoki.com/>

花束を抱えて真昼野にひた血族や無言で回る洗濯機あらかたの運は使った寝違える百萬遍叶ぬことがありすぎる半日を洗う大きな音させて流水が昇る処に連れてって使つてはいけなはずの爆撃機何もかも失くしたような青い空一人ぼっちで一人ぼっちを責めている綱引きの振り子に曇み込まれてく人待ちながら桜の幹に触れているくすり屋の風船挽歌は音も無く整列のきれいな金魚と住んでいる石いくつ投げて海に当たらない灰汁すくう私は必ずと私ですコンビニの外まで届かない明かり曇りのち晴れのあとでのませご飯放課後の香を綴じてある日記帳偏差値が揺れる妙案のない街角医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか案山子に石を投げるのは行く先は決めずただ真ん中だけ歩くまぐわうやひたくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげ大停電やつと心が見えまじした何もかも寒い夏だよ鶴彬ちいさめの月からいつも泣いてゆく着地せよ人間風と手を切つて水呑んで太陽呑んで僕発芽七回聴かせるリリーマールレーン履歴書の斑を北のせいにする叫び声もらさぬように栓がある流水の胎内いつも青い空マンモスと共存をする青い空泥の手で生きているよと空に云う天空へ反戦の蟹まつしぐらかざりある空かも知れぬ梅を干す空と書く日の石けんの匂いかな満月にぶら下げられている軍靴海が生まれそうでちよつと揺らしますだから黙つてるフェリー埠頭に雪じつてれば夕陽になれますか性愛や砧の音を引き摺つて芳一の耳によく似た勲章だまばたきの時は永劫かも知れぬふいに噛む指で引火を喰い止める六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ポタン二等辺三角の不脈鬼一匹作り笑いのまま眠る掌の砂を払い落として行く花野自画像を遡上している鯛の目愛すべき人よ全員手をあげる償いはこの闘いを終えて銃はやめて花束持ちなさいふりむけば金平糖の母がいる約束を破つて君はここにいます今からは雑草の顔生きてやるせんねん灸据えてる占拠して六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天の地球の色で子を包む漆黒になるまで撫でた涙壺濃くなつていく失つた色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやつと色がつく濃くなつてく失つたもの色他動詞のように葬列やつて来る無に還るまでの君の寝ぐせもベッドのシワも気になつて封筒の中で桜は満開に水差しと胃酸が置いてある仏間通動電車で金太郎飴になつてゆく矢弾の下た一つの前頭葉誤りを誰かが食べてくれている住みついた所に蜘蛛の巣を張るう訳あつて静止画像の中にある灯を消せば私の中にある尾花いちよは昨日と同じ量の米この木何んの木起立せよまだすこし木じゃないとこが残つてあきらめて中東あたり流れる本人が見た時は並んでいる並未樹になる役でもめている昔から木だった人になわなない躓いてばかり来世も雄である勝たたくはなかつたけれど子が二人母のベッドにかじり残りおんぶバツタの老老介護豆の花産道は善人だけが通る道文通しよう杉の花粉が降る間樹海へと続く現金振込機渚から渚へ書いている手紙昼の月疼く疵など無かるうがダヴィンチの生まれ変わりの蟹に遭う田の中でカカシともめる僕は白ルミノール反応ここから町はずれひと皿の夜をつまんで生き延びる折り返し地点でもらう紙コップ雨続く買つてもいない株のこと歯の抜けた隙からふわり飛行船妻としてリングネームを持つている味わつた後の男のデスマスクまだ消えぬ根雪にきつとある秘密花冷えや帯に短いものばかり酢ダ買つて西アフリカの蝸である綿毛吹く頼れる人のない真昼夢さめて二足歩行のカバになる帰らないつもりで閉めるドアの音村の歴史にアザミカンゾウ土一揆森からの手紙しつとり濡れて着く指先の汚れに気付くご焼香満月が笑う反対者が居ない水が欲しくて少年の日を釣っている冬のデモ蕎麦屋の前にさし掛かる外は雨平凡な日に戻るなり家出願望男の耳が落ちそうで首枷がきつて海を吐きそうだ栓抜きを探す途中の死の話吸って吐いて吸って吐いてる

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

「今度こそ」夜店の射撃で空ばかり狙つてる継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす